

# 四季報 草原灌漑

草原における環境保全型節水灌漑モデル事業 ニュースレター

Vol.1

## ニュースレター発行開始

本ニュースレターは「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業」で行った活動について、広く関係者の皆様にお知らせすることを目的として、4半期に一回発行を予定しています。

このプロジェクトは6月1日より開始され、主要なC/Pとして中国灌漑排水発展センター（水利部所管）及び、現地サイトの内モンゴル自治区杭錦旗、新疆ウイグル自治区木垒県において活動しています。

## 長谷部チーフアドバイザーからのごあいさつ



中国北西部の乾燥・半乾燥地域では、近年の気候変動等の自然的な要因に加え、過剰耕作、家畜の過放牧等の人為的要因によって草原の荒廃、砂漠化が進行しています。現在、年間約200haの速度で荒廃が進行し、中国全土の草原の65%が著しい荒廃にさらされ、砂漠化の影響を受けていないのは10%にすぎない状



（内モンゴルでの現地への道程）

況にあると言われてしています。

このような現状を踏まえ中国政府は、耕作を止め草原に戻す措置（退耕還草）や放牧をやめ草原に戻す措置（退牧還草）等により、草原の植生の回復と生態環境の改善を進めています。さらに、家畜の畜舎飼育との組み合わせによる放牧管理システム（禁牧、休牧、輪牧等）を確立し、草原への負荷を減少させるとともに、このシステムに不可欠な人工草地（飼料畑）を建設し、長期的な飼料生産の実現への取り組みを行っているところです。

しかしながら、人工草地の生産性を向上させるための重要な条件となる灌漑施設の整備率は低く、既存の灌漑施設の技術レベルも低い状況にあり、設計、施工、維持管理等あらゆる面において改善が必要であり、乾燥・半乾燥地域における節水灌漑技術の体系化が急務となっています。

このような背景のもと、中国政府の要請を受け、2007年6月1日に、我々3人の日本側専門家が、4年間の期間で実施する技術協力プロジェクト「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業（以下、モデル事業）」がスタートしました。既に、モデル事業のサイトも内モンゴル自治区杭錦旗と新疆ウイグル自治区木垒県に設定済みであり、現在、実証圃場の建設に取り組んでいるところです。



（パイプライン化による節水灌漑の様子）

本プロジェクトの目標となっている、「人工草地における節水灌漑施設整備計画」策定マニュアルの完成に向けて、今まで以上に、中国側関係機関との連携を図りつつ、最終的には整備した施設を使用する牧民の理解、協力が得られる節水灌漑施設の整備のためのマニュアル作りに計画的に取り組まなければならないと考えています。

## ○専門家・カウンターパートの紹介

6月1日より赴任した専門家及び日常共に活動しているカウンターパートの紹介をします。



### 日本人専門家

- チーフアドバイザー : 長谷部 均
- 業務調整員 : 叶 成洋
- 専門家 (節水灌漑) : 東 崇史

### 中国側カウンターパート

- |             |              |       |      |
|-------------|--------------|-------|------|
| ○首席代表       | 中国灌溉排水發展センター | 副主任   | 顧 宇平 |
| ○プロジェクト日常管理 | 〃            | 処長    | 王 彦軍 |
| ○節水灌漑       | 〃            | 副処長   | 徐 成波 |
| ○ 〃         | 〃            | 高級工程師 | 陸 文紅 |
| ○事務員        | 〃            | 經濟師   | 熊 德才 |
| ○通訳         | 〃            |       | 尋 博  |

## ○これまでの活動内容・出来事

中華人民共和国北京市に着任 (6月1日)

2007年6月1日より、派遣専門家である長谷部、叶、東の3名が北京に着任し、中国灌溉排水發展センターにおいて、「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業」を開始しました。

## 内モンゴル自治区・新疆ウイグル自治区現地モデルサイト候補地調査

(内モンゴル：6月11～15日、新疆ウイグル自治区：6月25日～29日)

プロジェクトを実施するに当たり、現地実証を行うためのモデルサイトの候補地を調査し、現地政府職員(C/P)との意見交換を行いました。



(内モンゴル自治区杭錦旗内候補地)



(新疆ウイグル自治区木垒県水利局との打合せ)

## 宮城県「草の根技術協力事業：吉林省住民参加型灌漑管理支援事業」調査団表敬訪問

(7月16日)

宮城県が中国吉林省で行っている「草の根技術協力事業」の調査団が当専門家チームを訪問されました。

先方が行っている事業の説明を受けると共に、当方の現在の状況、現地調査の結果について紹介するなどの交流を行いました。

(左から、東専門家、叶調整員、長谷部リーダー、高橋宮城県農村振興課長、鴫田農村振興課技術補佐、佐山技師、土屋アグリネット21理事、佐藤主事)



## HPサイトの設置 (7月18日)

灌漑排水発展センターのC/Pと共同で本プロジェクトのHPを立ち上げました。現時点では中国語のみですが、今後日本語のページも設置する予定です。

(<http://www.i-watersaving.org/>)



## 運営指導調査団来中国（8月2～9日）

西牧団長（JICA 本部農村開発部専門員）、天谷団員（岐阜大学農学部教授、国内支援委員会委員長）が本プロジェクトの運営指導のため訪中されました。中国灌漑排水センター(以下、センター)での C/P との意見交換、新疆ウイグル自治区の現地サイトの調査及び、本プロジェクトの目的である技術マニュアルを作成する場であるマニュアル編成委員会へ出席いただきました。

(写真：新疆の現地を視察する調査団)



## 第1回マニュアル編成委員会の開催（8月9日）

中国側からは水利部の李農村水利司長（日本の局長に相当）をはじめ水利部、センターの C/P が参加、日本側からは運営指導調査団の西牧団長、天谷団員、JICA 本部担当者、JICA 中国事務所、日本人専門家チームが参加いたしました。

委員会ではマニュアル編成の開始、今後のスケジュール、マニュアルの目次(案)の提案と承認などが行われ、今後4年間でマニュアルを完成させることが確認されました。なお、マニュアルの1次案は来年度の12月に完成することとなりました。

(写真：右奥から4人目は李司長)



## 内モンゴル自治区において現地 C/P に対する PCM 研修を実施（8月27日～30日）

現地モデルサイトでの実証を行うにあたって、現地 C/P を含む現地政府職員の能力向上を目的に PCM 研修を行いました。この研修においては新疆ウイグル自治区の水利庁 C/P 等の計4名も相互交流として参加しました。

本研修は灌漑排水発展センターC/P の主導のもと実施され、日本側からは JICA の取り組み及び日本の農業農村整備についての講義を行いました。PCM 手法による PDM 作成の研修は C/P が講師となり、研修生と一緒に実施されました。

(写真：PCM 研修に参加する研修生)



新疆ウイグル自治区において現地 C/P に対する PCM 研修を実施（9月10日～12日）

内モンゴル自治区での研修と同様の目的で、新疆ウイグル自治区においても研修を行いました。この研修においても内モンゴル自治区杭錦旗 C/P の 2 名が相互交流として参加いたしました。

また、この研修においては新疆ウイグル自治区で実施している JICA の技術協力プロジェクト「新疆

天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト」との連携の一環として大森専門家及び C/P が本研修に参加し、大森専門家から参加型水管理に関する講義が行われました。

（写真左：C/P による PCM 研修の様子。写真右：研修生に講義を行う東専門家）



青海省、甘肅省節水灌漑プロジェクトの現地調査（9月12日～19日）

今後適切にプロジェクトを実施するために、現在中国で行われている草原における節水灌漑プロジェクトの現状を把握することを目的として、青海省、甘肅省の牧区の現地調査を行いました。

基本的な施設は整備されており、草丈も 1m 程度成長するなどしていましたが、政府担当者が管理しており、実際に営農を行う牧民の参加が希薄であるように感じるなど、今後の課題も見られました。

（写真：甘肅省のプロジェクトサイト。付近に県の研究機関が設置されており、効果について検証を行っています。）



内モンゴル自治区杭錦旗実証試験サイトでの搬入資材の検査（10月22日～25日）

来年度からの節水灌漑の効果を測定するための実証試験を実施するサイトにおいて、節水灌漑施設の導入を行います。今回は資材の搬入を行った現地に赴き、材料の確認を行うと共に、施工の様子を確認しました。

ある牧民は、節水灌漑の効果を見越して、今年度の栽培面積の 3 割増しの作付けを考えており、これまで草原であったエリアまで節水灌漑施設を導入するなど、積極的な姿勢が見られました。

（写真：前年度まで草原でのパイプライン設置準備状況）

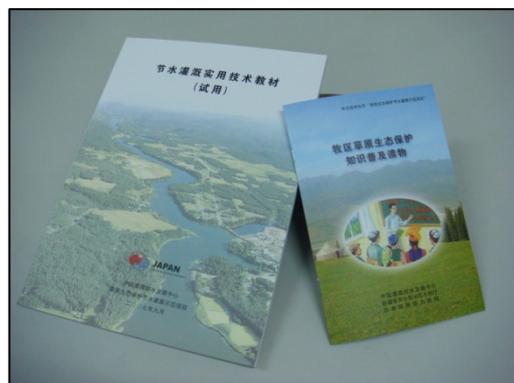


技術者向け研修教材(案)及び牧民向けパンフレットの作成 (10月下旬)

本プロジェクトの目標である技術者に向けた研修を行うことの一環として、技術者向け研修教材の案を作成しました。現在、この教材を地方政府の技術者に配布し感想・意見の徴収を行い、その意見等をフィードバックするよう考えています。

また技術者向けとは別に、牧民に向けたパンフレットを作成しています。このパンフレットは技術的なものではなく、読み物形式とし、過放牧等による草原への負荷を軽減するための節水灌漑といった内容としています。今後、完成次第、各省・自治区の担当者に配布する予定です。また、より牧民に理解が進むよう、カザフ語への翻訳も作成する予定です。

(写真：左が技術者向け研修教材、右が牧民向けパンフレット)



編集後記：

中国に来てから約半年、北京の様子と地方の様子の違いにこれが同じ国なのかと驚きながら、来年度の現地での実証試験に向けた準備期間として種をまいてきました。今後はその種の芽が出るよう、冬の間 C/P と十分連携を図りながら計画を練っていきたいと思います。北京の事務所や現地のサイトを見学されたい方は是非ご連絡ください。

プロジェクト所在地

北京市宣武区广安門南街 60 号 荣宁園 3 号楼 中国灌溉排水发展中心日本專家室

Tel : +86-10-6320-3380、FAX : +86-10-3376 e-mail : taka316318@hotmail.co.jp

担当：東 崇史